

# 池上先生の宿題

刈屋 寿

池上先生は多くの会員に宿題をだされた。内容は各自の技量に合わせ、努力、勉強をすればかならず達成できるもので、けって無理、難題ではなかった。それにより多くの会員が「宿題が山ほど出された」と言いながらも、嬉々としてやる気を持ったことは言うまでもない。

私も多くの宿題を頂戴した中に「巨木調査」がある。以前から神社、仏閣などに見られる森や、市町村指定の樹木などでなく、人知れず山野に自生する大きな樹木に関心があった。去る1989年3月、日本植物分類学会が新潟市で開催された。その休憩時間に池上先生と里見先生の3人で懇談する機会があり、里見先生より「石川県巨樹の会」の話が出て、その協力要請があった。池上先生より「あんたが入会して頑張してほしい」といわれ、今日に及んでいる。

その後先生に会う度に名称をどうするかと悩んでおられた。最終的に「雪国の古木」と決まり、範囲は新潟県内に留まらず広く積雪地帯であること。上記の如くすでに明らかになった巨木でなく、主に山岳に自生するもの。杉や樺のごとく本来巨木になる性質を持った樹木より、高さが30センチもあればりっぱな巨木であるヤブコウジなど、つる植物も含め対象は樹木全般であること。

巨木調査は2回ほど「じねんじょ」に投稿したが思うように進展せず、もし、あの世で池上先生とお会いできたら「すみません」と頭を下げるしかないと感じている。

巨木調査から弥彦連山は、弥彦山脈植物友の会誌「かたくりの詩」から、福島県只見町は「会津只見の自然・植物編」から抜粋して記述する。計測は地上1.3mである。

## 1. 弥彦連山

ほとんどが二次林と杉の植林に覆われている山塊であるが、注意深く見ると実に多くの樹木が生育しており、思わぬ巨木に出会う楽しみがある。

### (1). シロヤナギ *Salix jessoensis* Seemen (写真1)

国内の分布は東北地方と云われるが、富山、新潟から福島県会津地方より東北地方に分布する。県内でも河川ぞいなどに広く分布する。ただ流水に支障をきたすためか伐採されあまり巨木は見当たらない。弥彦連山におけるシロヤナギの分布はまれである。

生育地：西蒲原郡巻町角海浜

海 抜：5m

幹 周：259cm (直径：82.5cm)

樹 高：13m

### (2). ブナ *Fagus crenata* Blume (写真2・3)

かつては弥彦連山はブナが広く分布していた証として、国上山のブナ林がある。これは低海拔の生育地として貴重であると云われている。その他は弥彦山から多宝山の稜線ぞいの東斜面に帯状に分布している。大体海拔500m以上、場所によっては海拔400mから見られる。しかし、多宝山より北方、角田山も含めて分布はしていない。

太さは直径50~60cmのものがほとんどで、その中に多宝山に1本、国上山の1本が弥彦連山では飛び抜けて大きな木であるので記録する。

#### A. (写真2)

生育地：西蒲原郡岩室村多宝山

海 抜：580m

幹 周：283cm (直径：90cm)

樹 高：約20m

枝張り：西(山側)5m、他は15m

#### B. (写真3)

生育地：西蒲原郡分水町国上(国上寺境内)

海 抜：140m

幹 周：286cm (直径：91cm)

樹 高：18m

枝張り：地上1mより四方八方に出ている。

### (3). カスミザクラ

*Prunus verecunda* (Koidz.) Koehne (写真4)

弥彦連山で山桜といえば、山頂展望ビルの前(東斜面)にある「やひこ桜」が挙げられる。この桜は地上1mの所より4本に分かれているため、根元より太くなっている。地上30cmの計測では幹周：360cm(直径114.5cm)、樹高：16mである。説明板によると、植物学者三好博士の命名で山桜の変種で「やひこ桜」となっている。一考を要する。

ここに挙げたのは人も振り返らない山中の桜。枝振りといい、高さといい、引けを取らない。太さで僅か及ばないまでも堂々たるもので「かくだ桜」と称したい。

生育地：西蒲原郡巻町角田山宮前コース

海 抜：380m

幹 周：317cm (直径：101cm)

樹 高：15m

枝張り：各5~10m

(4). ヒトツバカエデ

*Acer distylum* Sieb. et Zucc. (写真5)

日本固有種で岩手・秋田県以南から近畿地方東部に分布。県内では佐渡、粟島を除き普通に分布する。最大で直径40cm、樹高12mになるという。

弥彦連山の分布は興味深く、国上山、弥彦山に無く、角田山の五ヶ峠道上部から山頂にかけて僅かに分布し、いずれも1~2mの低木である。その中で山頂に生育している1本だけが特別大きい。

生育地：角田山山頂

海 抜：480m

幹 周：44cm (直径：14cm)

樹 高：13

(5). エゾクロウメモドキ *Rhamnus japonica* Maxim.

(写真6・7)

主に太平洋側に生育するクロウメモドキに比し葉が大きく、北海道から鳥取県までの日本海側に分布する。県内にも広く分布し、主に海拔500m以下に見られるが、県南部では1,000m以上にも分布する。いずれも高さ4mほど、根本の直径が10cmほどの亜高木である。弥彦連山に点在するエゾクロウメモドキの中で角田山の五ヶ峠道に生育している2本はひとときわ大きいので記録する。2本は登山道をはさんで隣接している。

生育地：角田山五ヶ峠道

海 抜：400m

A (写真6)

根 周：62cm (直径：19.5cm)

幹 周：52cm (直径：16.5cm)

樹 高：6m

B 地上1mで二股 (写真7)

地上10cmの計測

幹 周：50cm (直径：15cm)

地上50cmの計測

幹 周：45cm (直径：14.5cm)

樹 高：4m

II. 福島県南会津郡只見町

近年の暖冬少雪とはいえ、県内で人が生活している場所(住居)で積雪の多い所といえば、北魚沼郡入広瀬村大白川新田はトップクラスにランクされるであろう。ここに降る雪を北西の強風が県境の山脈を越えて吹き下ろす所が只見町である。したがって大白川新田より積雪は多い。人間が住居している場所の最大積雪地の一つではないだろうか。

只見町は過去に多くの巨木が伐採され、イカダで新潟方面へ運ばれた記録がある。町のほとんどが山地で、調査可能な地域が大部分を占める。それらの山地に多くの巨木が点在することは容易に想像できる。

(1). クロベ *Thuja standishii* (Gordon) Carriere

(写真8)

生育地は急峻な尾根や峻線上で、近寄ることができない所が多い。その中でこの木は登山道のわきにある。高海拔で気象条件のきびしい豪雪地で、数百年の風雪に耐えた樹木は貴重である。環境庁の1991年版「日本の巨樹・巨木」では全国第5位となる。

生育地：会津朝日岳叶ノ高手

海 抜：1,400m

幹 周：530cm (直径：169cm)

樹 高：18m

枝 張：り：四方とも少し横に張り出して垂直にのびる。

着生植物：サラサドウダン

(2). クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. (写真9)

只見町で最大の樹木。スギ林にあり、林床にはユキツバキ、ヒメアオキ、ケアブラチャンなどが生育している。

地上5m付近で3本に別れ、それぞれは周囲360cm・410cm・470cmで、環境庁の1991年版「日本の巨樹・巨木」で照合すると、日本一の大クリとなる。

生育地：只見町大字石伏

海 抜：390m

幹 周：750cm (直径：240cm)

樹 高：18m

枝 張：り：東8.5m、西7m、南11.3m、北5m

着生植物：ハイヌガヤ、イワガラミ、アズキナシ、ヤマボウシ、ツタウルシ、コハウチワカエデ、エゾツリバナ、カラクサシダ

(3). ブナ *Fagus crenata* Blume (写真10)

この樹木は巨木とはいいがたい。大体ブナ林に入るとこの大きさが上限となっており、いま一回り大きいと巨樹となる。

生育地の浅草岳沼ノ平のブナ林は規模、原始性、静けさ、品格などどれも超一級と評価され、和賀岳のブナ林とともに全国一位にランクされている。(ブナの山脈：山と溪谷社)。その沼ノ平ブナ林の1本として記録する。

生育地：浅草岳沼ノ平（権左衛門平）  
海 拔：760m  
幹 周：465cm（直径：148cm）  
樹 高：24m  
枝 張 り：四方に各10m  
着生植物：ツルアジサイ

生育地：只見町大字小林  
海 拔：470m  
幹 周：430cm（直径：137cm）  
樹 高：22m  
枝 張 り：東9m、西7m、南9.4m、北9m  
着生植物：ツルアジサイ、ツタウルシ、ツルマサキ

(4). オオウラジロノキ

*Malus tschonoskii* C. K. Sehn. (写真11)

只見町では比較的積雪の少ない所に生育し、分布に隔たりがみられる、新潟県内では阿賀野川ぞいに分布する。果実は咳止めの妙薬として珍重される。

その他会津只見の自然「植物編」には、多くの巨樹・巨木が記載されている。また幹周が6m以上のオオヤマザクラと思われる巨木の情報があり、2004年に調査の予定。

弥彦連山



1. シロヤナギ



2. ブナ



3. ブナ



4. カスミザクラ



5. ヒトツバカエデ



6. エゾクロウメモドキ



7. エゾクロウメモドキ

只見町



8. クロベ



9. クリ



10. ブナ



11. オオウラジロノキ